第14回 CSデザイン賞
THE 14TH CS DESIGN AWARDS 2006

目　次 CONTENTS

1　審査員講評　永井一正

2　大　賞

4　A: 装飾部門

8　B: サイン部門

10　C: 輸送機器部門

11　D: 実験部門

16　奨励賞

12　審査員講評　福田繁雄／菊竹清訓／内田 繁／佐藤 卓

16　ご挨拶　中川幸也

応募要項

表紙デザイン／永井一正

2　GRAND PRIX AWARD

4　A: DECORATION CATEGORY

8　B: SIGN CATEGORY

10　C: TRANSPORT MACHINE CATEGORY

11　D: EXPERIMENT CATEGORY

16　ENCOURAGEMENT AWARD

14　JUDGES' COMMENTS
Kazumasa Nagai / Shigeo Fukuda /
Kiyonori Kikutake / Shigeru Uchida / Taku Sato

15　ACKNOWLEDGEMENT
Yukiya Nakagawa

SOLICITATION CONDITIONS

Cover Design by Kazumasa Nagai

25年の成果

永井一正

Kazumasa Nagai

CSデザイン賞も第14回を迎え、発足以来25年になる。25年前にこのCSデザイン賞は、勝見勝先生と中川社長との相談の結果、中川社長の熱意に圧されたかたちで実現した。私は当初から勝見先生に呼ばれ審査に参加したが、残念ながら間もなく勝見先生が突然お亡くなりになり、亀倉雄策先生を中心に現在の体制ができた。しかしその後、亀倉先生、田中一光さんも亡くなり、時代の移り変わりを感じざるをえない。

そしてCSデザインも当初から見れば目覚ましい普及、発展をとげた。今や街の環境・美観にとって欠くことのできない存在となり、それだけにそのデザインは重要になってきた。そのデザイン向上に大きく貢献してきたのが、このCSデザイン賞である。今回も数多くの力作が寄せられた。大賞の〈HIROO COMPLEX〉は、私もよく通る広尾に建つ商業ビルであるが、建物全体がガラススクリーンに覆われ、その全面に半透明のCSが使用され洗練された現代的な外観が目を引く。また瀟洒な白のバルコニーや屋外階段がリズムのあるファサードを形成している。そして夜は建物全体が白く発光し圧巻である。

装飾部門金賞の〈丸ビル宣伝演出〉は丸ビルを「マル」のアイコンにより巧みに、そして気持よく演出している。大きな女性のイラストレーションの笑顔に重なる「マル」が丸ビルのビル内から外観のガラス面にまで広がり、そのブルーは初夏の爽やかな浮遊感となり印象づけられる。装飾部門は応募点数も多く秀作ぞろいで、この部門から多くの賞がでた。

サイン部門金賞の〈長崎県美術館——館名サイン〉は、半透明な一見チラチラする不思議なサインであるが、見る角度によって視覚効果が変わり、館名が印象づけられる。そしてこのサインは美術館全体の優れたCIデザインの一連のものとして、その効果を増幅させている。

輸送機器部門金賞の〈富山ライトレール PORTRAM〉は優れたデザインの電車である。白と明快に別れた色彩は電車によって変わり、鮮やかであり、立山連峰を背景にして走る景観は美しい。

他の賞も優れたデザインが多く、CSデザイン賞25年の成果が見事に実ってきたように思う。

（グラフィックデザイナー）

大 賞

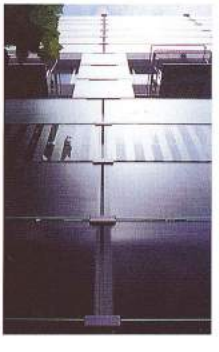
作品名／HIROO COMPLEX Ⅰ期・Ⅱ期——商業ビルの外皮

ディレクター／横河 建
サイン計画／廣村正彰　　照明計画／近田玲子
クライアント／有限会社エフ・ティー
構造計画／播磨　　施工／日東工営株式会社
加工（ガラススクリーン製作）／松下環境空調エンジニアリング

GRAND PRIX AWARD

Title / HIROO COMPLEX Stage I and Stage II——Exterior Skin of Commercial Buildings

Director / Ken Yokogawa Sign Plan / Masaaki Hiromura
Lighting Plan / Reiko Chikada Client / F・T
Structural Design / Shigeru Van Constructor / Nittohkoei Co., Ltd.
CS Processor (Glass Screen Production) / Matsushita Environmental & Air-conditioning Engineering



A: 装飾部門

金賞　作品名／丸ビル——2005年度宣伝演出 初夏

ディレクター／廣村正彰
デザイナー／木住野英彰＋楠田雅史
イラストレーター／わたなべろみ
クライアント／三菱地所ビルマネジメント株式会社
施工／株式会社ソーエー

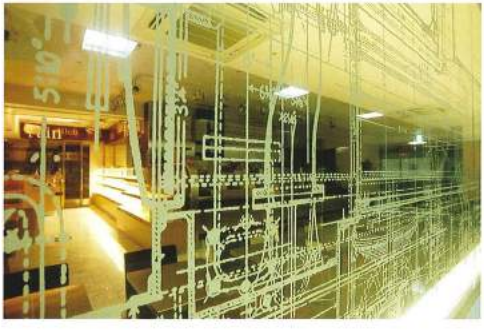
A: DECORATION CATEGORY

Gold Award　Title / Marubiru (Marunouchi Building)
——2005 Year Publicity and Presentation: Early Summer

Director / Masaaki Hiromura
Designer / Hideaki Kishino + Masashi Kusuda
Illustrator / Romi Watanabe
Client / Mitsubishi Estate Building Management Co., Ltd.
Constructor / Soei Inc.

銀賞　作品名／Deli Cafe——JR駅構内の店舗デザイン

クライアント／株式会社ジェイアール西日本フードサービスネット
ディレクター／有限会社スマイル
施行／株式会社ジェイアール西日本ビルト＋株式会社大丸装工
グラフィックデザイナー／河野 恵



Silver Award　Title / Deli Cafe
——Design of Stores Within JR Stations

Client / West Japan Railway Food Service Net Company
Director / Smile. Ltd.
Constructor / JR West Built Co., Ltd. + Daimaru Design & Engineering Co., Ltd.
Graphic Designer / Megumi Kouno

銀賞　作品名／<GUNDAM 来たるべき未来のために>展

ディレクター／佐藤オオキ
デザイナー／佐藤オオキ
クライアント／ガンダム展製作委員会
施工／株式会社乃村工藝社

Silver Award　Title / "GUNDAM GENERATING FUTURES" Exhibition

Director / Oki Sato
Designer / Oki Sato
Client / GUNDAM Exhibition Project
Constructor / Nomura Co., Ltd.

銅賞　作品名／ベンチャーバンク
——オフィス・グラフィックス

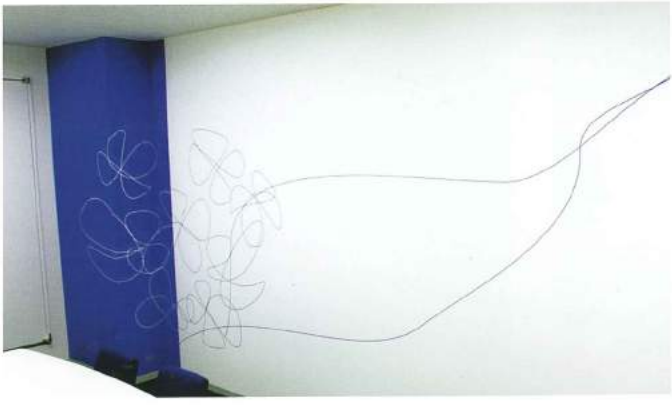
ディレクター／宍戸貴幸
デザイナー／松岡陽子
設計／椏 葉子
クライアント／（株）ベンチャーバンク

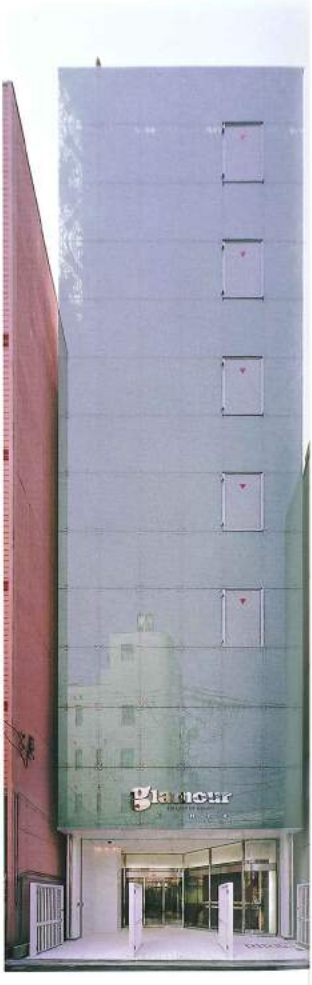
Bronze Award　Title / Venture Bank
——Office Graphics

Director / Takayuki Shishido
Designer / Yoko Matsuoka
Space Design / Yoko Kakoi
Client / Venture Bank

銅賞　作品名／グラムール美容専門学校 アネックス
——ファサード変容

デザイナー／川崎善広
クライアント／グラムール美容専門学校
施工／昭和工務店





Bronze Award Title / Glamour College of Beauty Annex——Glass Facade Change

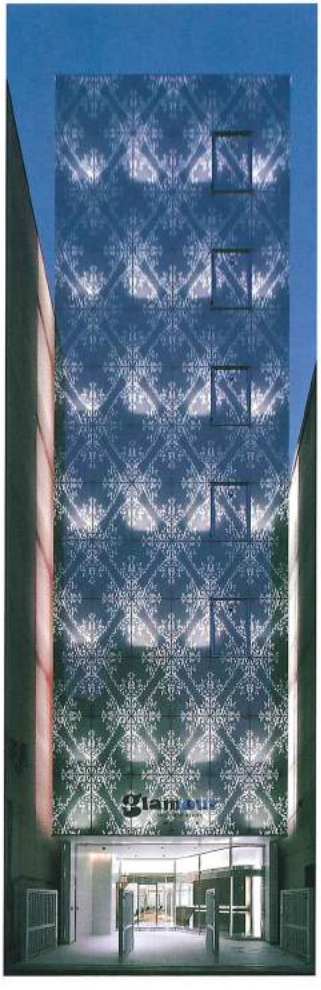
Designer / Yoshihiro Kawasaki
Client / Glamour College of Beauty
Constructor / Showa Koumuten

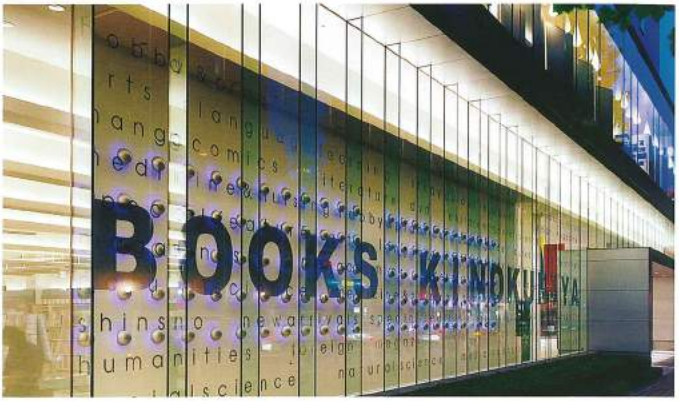
銅賞 作品名／紀伊國屋書店 札幌本店——ウィンドウディスプレイ

ディレクター／ケイ・ニー・タン
デザイナー／相澤幸彦
クライアント／株式会社紀伊國屋書店
施工／株式会社竹中工務店北海道支店
加工／株式会社フレンズ

Bronze Award Title / Books Kinokuniya Sapporo Main Store——Window Display

Director / Kay Ngee Tan
Designer / Yukihiko Aizawa
Client / Kinokuniya Company Ltd.
Constructor / Takenaka Corporation
CS Processor / Friends Corporation





B: サイン部門

金賞 作品名／長崎県美術館——館名サイン

ディレクター／原 研哉
デザイナー／原 研哉＋色部義昭
クライアント／長崎県
設計監修／日本設計＋隈 研吾
施工／株式会社コトブキ

B: SIGN CATEGORY

Gold Award Title / Nagasaki Prefectural Art Museum
——Museum Name Sign

Director / Kenya Hara
Designer / Kenya Hara + Yoshiaki Irobe
Client / Nagasaki Prefecture
Architect / Nihon Sekkei, Inc. + Kengo Kuma
Constructor / Kotobuki Corporation

銀賞　作品名／HILTON PLAZA WEST
——サインおよび環境グラフィックデザイン計画

ディレクター／廣村正彰＋藤田克美　　写真家／広川泰士
建築デザイン／原田哲夫
クライアント／第2吉本ビルディング
施工／(株)フォトクラフト社

Silver Award　Title / HILTON PLAZA WEST
——Sign and Environment Graphic Design Plan

Director / Masaaki Hiromura + Katsumi Fujita
Photographer / Taishi Hirokawa　　Architect / Tetsuo Harada
Client / Dainiyoshimoto Building, Ltd.
Constructor / Photocraft Inc.

C: 輸送機器部門

金賞　作品名／富山ライトレール PORTRAM――トータルデザイン

全体ディレクション＋インフラデザイン：チームディレクター／宮沢 功　　デザイナー／入江寿彦＋西浜敦佐子
車両デザイン：デザイナー／菅 泰孝＋若尾講介
VI＋色彩デザイン：デザイナー／島津勝弘＋竹内陸人＋井澤鉄之助＋野島博子
広告＋広報デザイン：デザイナー／山田晃三＋佐藤伸矢
クライアント／富山ライトレール株式会社

C: TRANSPORT MACHINE CATEGORY

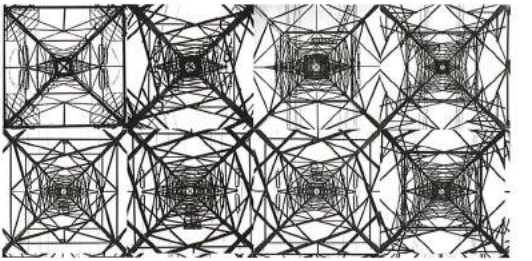
Gold Award　Title / Toyama Light Rail PORTRAM――Total Design

Total Direction and Infrastructure Design:
Team Director / Isao Miyazawa
Designer / Toshihiko Irie + Masako Nishikata
Train Design: Designer / Yasutaka Suge + Kousuke Wakao
VI and Color Design: Designer / Katsuhiro Shimazu + Kento Takeuchi + Tetsunosuke Izawa + Hiroko Nojima
Advertisement and Publicity Design: Designer / Kouzo Yamada + Sinya Sato
Client / Toyama Light Rail Co., Ltd.

D: 実験部門

銀賞　作品名／秋葉原UDX——光壁アートワーク

ディレクター／飯島直樹
デザイナー／竹内良幸　　写真家／屋代敏博
クライアント／NTT都市開発株式会社＋鹿島建設株式会社
エージェンシー／エイムクリエイツ
施工／鹿島建設株式会社　　加工／ING グラフィックアーツ



D: EXPERIMENT CATEGORY

Silver Award　Title / Akihabara UDX——Light Wall Art Work

Director / Naoki Iijima
Designer / Yoshiyuki Takeuchi
Photographer / Toshihiro Yashiro
Client / NTT Urban Development Inc. + Kajima Corporation
Agency / AIM Create Inc.
Constructor / Kajima Corporation
CS Processor / ING Graphic Arts Inc.

福田繁雄
Shigeo Fukuda

菊竹清訓
Kiyonori Kikutake

内田　繁
Shigeru Uchida

佐藤　卓
Taku Sato

第15回の実験部門に期待して…
福田繁雄

今年も前回にもまして、興味深い作品が集ってくれることを願った。カッティングシートという素材を、如何に、その特質を生かし、新しい視点でクリエートするか――審査のターゲットはこの一点にあるのだが、素材をこえたクリエーションレベルは期待を裏切らなかった――文字やパターンを切りぱりするという「技くらべ」は過去に追いやられた。という実感が強く残った第14回の審査だった。

注目したい実験部門。発想のないところに、発見も、発展もあり得ない。実験工程はクリエーターにとっての喜びであって、創造、創作の核だと思う。――社会にかかわり、速効、効果で成果が求められる掟の強い現代デザインでは、余裕の実験は許されないし、あり得ない。――CSデザインコンペにその面白くして、重要な実験部門があるのは、素晴しい「場」だと思って間違いない。――

実験はクリエーターの知識と知恵、「今」を読みとる発想。そして、社会への提案。それは、未来の国の文化をも、左右するパワーになり得る――知的財産の温床だと思う。

＊＊＊

（蒸気機関車）鉄道関連施設の環境壁面としては、当然、平凡なエレメントなのだが、〈デリカフェJR天王寺駅〉〈デリカフェJR芦屋駅〉は、原寸？と思われる、本物？の立面図を壁面いっぱいに、さらりと登場させているのだ。精密な線描図が、生温いイラストやつくりものの写真パネルの多い環境壁面とは次元の異なる快適な空間を創りあげている。

〈HIROO COMPLEX〉は素材特質を新しい視点と発想で見事に表現してくれた格調の一点だった。CSの持味である色彩とは異なる「光」との合体調和はCSに新しい、それこそ、「光」をあてた作品といえる。

＊＊＊

（グラフィックデザイナー）

『ミニマム・サーフェース』の可能性
菊竹清訓

ある年イランで開かれたパーレビ国王の特別会議で、アメリカの哲学的建築家バックミンスター・フラーさんが『ミニマム・サーフェース』という概念を示され、これからの建築および都市を覆うドームについて"未来の被膜"というテーマでお話しされたことを思い起こします。

特殊強化・断熱・遮音・透過などの様々なガラス技術の発展に加え、多様な色彩・文字・模様までを広範囲に表現できるカッティングシートの開発により、正に新しいサーフェースの時代が始まろうとしています。

今年のCSデザイン賞審査において、そのような感慨を深く印象づける作品が目を引きました。ガラスの壁が建物の存在自体を変えているといった例はヨーロッパでは既にあって、これまでにも少数ながら日本の作家によって一部実現されている例もありましたが、今回の審査でこれほど多くの新しい時代の到来を感じさせる作品が提出されたことは、ひとつの変革を示すものであり、たいへん喜ばしいことだと思います。

とりわけ、大賞となった〈HIROO COMPLEX〉のように、既存の外装に融合した新しい被膜の存在が、建築やストリート・デザイン、照明デザインの枠にとらわれない今後の可能性を感じさせます。この兆候がやがて外装を変え、インテリアを変え、生活環境を変化させることになると、際限なく楽しくなってくるように期待されます。

一方、近年におけるLEDの省エネ技術等の進歩により、夜の環境時代の到来とも考えられる現象が注目されますが、反面この舵取りには十分配慮しないと、都市全体がひどく混乱することになりかねないのも事実でしょう。

今回提案されたモチーフも、単なる模様や図案の域を越え、建築単体に留まらずストリート全体にまで拡大してくると、街の個性や地域のアイデンティティの表現としてこの技術の果たす役割が予想以上に大きく、効果的なものになってくると思われ

ます。

かつてフラーさんが指摘された『ミニマム・サーフェース』の問題を改めて取り上げ、今後の課題として「街装デザイン」の可能性を追求していってほしいと思います。

そうした新しい時代の到来を感じさせる作品例として、具体的に今回の受賞作品では、大賞の〈HIROO COMPLEX〉、装飾部門金賞の〈丸ビル〉、同部門銅賞の〈グラムール美容専門学校〉と〈紀伊國屋書店 札幌本店〉、輸送機器部門金賞の〈富山ライトレール PORTRAM〉などが挙げられます。

（建築家）

シート時代の到来
内田　繁

いよいよシートの時代が来たのだろうか。

以前から私は建築・室内空間の表現素材として、シート時代が来るのではないかとしばしば指摘してきた。今回の賞を眺めるならば、いよいよ本格的にシートを耐久的素材として活用しはじめたように感じる。建築・室内空間でシートの活用は古くから行われていた。その表現はグラフィックやビジュアルに、空間に特定の表現をなされる場合に多く見られた。さまざまな表現技術は室内空間にある種の色どりを与えた。だが、それらの多くは一定の期間に限定される場合が多く、建築本来の基本マテリアルとしてはあまり採用される例が少なかった。だが、今日、シートは建築の基礎的素材になった。それは耐久性という最も建築空間が必要としている問題をクリアーしたのだろう。

シートの使われ方には多く、二通りの見方ができる。そのひとつは先にも述べた大胆な表現、グラフィック、写真、色彩などの表現を空間が必要としたとき、他では実現できないほど優れた素材として採用される。それは表現の安定性、精密性が他では得ることのできないほど優れているからにほかならない。もう一方の使われ方は空間・建築におけるベーシック素材としてのシートである。たとえば色彩空間についてだが、一般に空間に色彩を施す場合、ペイントといった方法を採用している。ペイントは顔料を展色剤と混合して作られる素材で、その彩度、明度にはおのずと限界がある。その点、シートの色彩はペイントでは得ることのできない安定した美しい色彩を得ることができる。こうした点が、建築空間のベーシック素材としての可能性を示したのだろう。

シートが建築材料、例えば木、鉄、石、レンガなどと同等にベーシック素材の一員に加わることは表現の拡大である。シートには色彩だけではなく、さまざまな表層をつくりだす。場合によっては私たちの想像を越えた空間を実現することができるのだろう。今回のCSデザイン賞はそうした未来を予測させるような作品群であった。

（インテリアデザイナー）

第14回CSデザイン賞の審査会を終えて
佐藤　卓

今年賞に入った作品を改めて見ると、シートを貼ったグラフィックという枠を大きく越えて、空間のあり方自体を変えてしまうような力のある作品が多いことに気付く。グラフィックが空間にどれだけ大きな影響を与えるか、これらを見ると証明できる。それだけいい仕事が多く集まったということでもある。大賞に輝いた〈HIROO COMPLEX Ⅰ期・Ⅱ期〉の仕事は、まさにそれを象徴している。細かいシートによるグラフィック処理は見あたらなく、半透明のシートの使い方だけで建築自体の存在をいい意味で曖昧にしている。まるで皮膜に覆われた人間の巣とでも言いたくなるような不思議な存在である。建築においてサーフェスがいかに重要かを物語ってくれている。

他にいい仕事として印象的だったものは、サイン部門金賞の〈長崎県美術館〉の仕事である。建築・サイン・ウェブサイトなど、全体にわたって縦の細いストライプが効果的に生かされている。建築の縦の細いスリットと2列のスリット状のサインシステムの関係は見事である。人の動きに対して、2列のスリットのモワレの中に漢字ロゴと英ロゴが、縦の白い直線の動きと摺り合わされるように見える。その動きがウェブサイトなどの動画ロゴと連動している。繊細なデザインが美術館のレベルの高さを期待させる。

輸送機器部門は、昨今の都バスなどでよく見かける汚いグラフィックに比べ、金賞の〈富山ライトレール PORTRAM〉のデザインが圧倒的に美しく、大胆な色使いが街と自然の景色の中にそれぞれ気持ちよく馴染んでいる。広告媒体として街を汚しているとしか思えない汚いバスのグラフィック処理と比べていただきたい。

実験部門銀賞の〈秋葉原UDX――光壁アートワーク〉のグラフィックに使用されている素材が実に面白い。いろいろな鉄塔を下から見たところをパターンとしている。意味のある形の抽出の仕方、その視点が実験部門ならではで実にいい。

〈あおぞらに抜ける道〉他の作品は、カッティングシートが引き出した自由な創作活動という意味で今年特別に奨励賞になった。これも道具の可能性のひとつに他ならない。

今回残念だったのは輸送機器部門と実験部門の受賞作品以外、いいものがなかったことである。実際の仕事で恵まれない環境にある若いクリエイターがもっと新たな可能性を実験部門で探ってほしいと思う。

（グラフィックデザイナー）

THE 14TH CS DESIGN AWARDS JUDGES' COMMENTS

Results After 25 Years
Kazumasa Nagai

Twenty-five years have passed since the CS Design Awards were first established, and the 14th CS Design Awards are being awarded this year. The CS Design Awards were established 25 years ago, pressured by the enthusiasm of President Yukiya Nakagawa of Nakagawa Chemical Inc. after discussions by Masaru Katzumie and President Nakagawa. From the very beginning, I was asked by Mr. Katzumie to be a judge, but unfortunately Mr. Katzumie passed away soon afterward, resulting in the present group of judges centered on Yusaku Kamekura. Later, however, Mr. Kamekura and Ikko Tanaka died, making us consider how times change.

When viewed from the beginning, CS design has experienced spectacular popularization and development. It has now become an existence indispensable to the urban environment and spectacle, and that is why CS design has become important. What has greatly contributed to the improvement of CS design are these CS Design Awards. This time again many masterpieces were submitted. The "HIROO COMPLEX" is a commercial building which stands in Hiroo, where I frequently go, but the entire building is covered by a glass screen. Semi-transparent CS is used on the front, so that the refined modern exterior catches the eye. Also the elegant white balcony and the outdoor stairway form a facade with rhythm. And at night the entire building shines white to provide an overwhelming spectacle.

The "Marubiru Publicity and Presentation," which won the Gold Award in the Decoration Category, has presented the Marubiru skillfully and pleasantly through the "maru" (circle) icon. The "maru," which is superimposed on the smiling face of the large woman's illustration, spreads out from inside the Marunouchi Building to the exterior glass surface, and the blue is impressive, becoming the refreshing floating feeling of early summer. Many works were submitted in the Decoration Category, and many of them were outstanding works, resulting in many awards in this category.

The "Nagasaki Prefectural Art Museum – Museum Name Sign," which won the Gold Award in the Sign Category, is a strange, semi-transparent sign which appears to flicker, but the visual effect changes according to the viewing angle. The museum name is impressed on the viewer's mind. As part of the superior CI design of the entire museum, this sign has amplified its effect.

The "Toyama Light Rail PORTRAM," which won the Gold Award in the Transport Machine Category, is a train with a superior design. The colors, which are clearly separated from white, differ according to the train and are vivid. The scenery with the Tateyama mountain range in the background is beautiful.

There were many superior designs in other award-winning works, so I felt that the 25 years of the CS Design Awards had achieved outstanding results.

Graphic Designer

Placing Hopes on Experiment Category in 15th CS Design Awards
Shigeo Fukuda

This year again I hoped for the submission of very interesting works which are even more interesting than those which qualified for the 13th CS Design Awards. The judging target was focused on how the special characteristics of the material called the cutting sheet were made full use of to create works from a new standpoint, and the creation level which transcended the material itself did not disappoint my expectations. The actual feeling after the judging for the 14th CS Design Awards was that the "technical duel" of cutting out and pasting words and patterns had been relegated to the past.

Noteworthy is the Experiment Category. Both discovery and growth are impossible where there is no conception or idea. I believe that the experiment process is a pleasure for the creator and the nucleus of creativity and production. In modern design in which there is the rule demanding connections with society and speedy results and good effects, experiments with leeway are not permitted and impossible. It would not be a mistake to believe that the existence of the interesting and important Experiment Category in the CS design competition is a wonderful "site." An experiment is a conception which expresses the creator's knowledge, intelligence and "now." And it is a proposal to society. I believe it is a hotbed of intellectual assets which can become the power to control the culture of the country of the future.

(Steam Locomotive) Although they are naturally ordinary elements as environment surfaces of railway-related facilities, the "Deli Cafe JR Tennoji Station" and "Deli Cafe JR Ashiya Station" have lightly produced on the full surface real (?), actual size (?) and solid drawings. The detailed line drawings have created pleasant spaces different in dimension from the environment surfaces which are mostly covered by lukewarm illustrations and artificial photographic panels.

The "HIROO COMPLEX" was a stylish work which brilliantly expressed the material characteristics from a new standpoint and conception. The merger harmony with "light" which is different from the colors which are the distinctive characteristics of CS can be called a work which applied a new "light" on CS.

Graphic Designer

Possibilities of "Minimum Surface"
Kiyonori Kikutake

I recalled recently that at a special conference sponsored by Shah Mohammed Riza Pahlevi in Iran years ago, American philosophic architect Richard Buckminster Fuller set forth the "minimum surface" concept and talked on the theme that domes covering future buildings and cities are the "surfaces of the future."

A truly new surface age is about to begin through the development of the cutting sheet which can express over a wide scope manifold colors, words and patterns, on top of various developments in glass technology such as special strengthening, heat insulation, sound insulation and light transmission.

In judging the works for this year's CS Design Awards, works which gave a strong impression of such an emotion caught the eye. Examples of glass walls changing the existence itself of buildings had existed from before in Europe, and up to now there had been a few examples of Japanese architects partly achieving this concept. That so many works making one feel the arrival of a new age were submitted this year indicates a reform and is, I believe, very gratifying.

Particularly in the case of the "HIROO COMPLEX," which won the Grand Prix Award, the existence of a new film which harmonizes with the existing facing makes us feel the future possibilities not bound by the limitations of building and street design and lighting design. If this sign eventually changes the facing, the interior and the livelihood environment, there are hopes that life will become infinitely enjoyable.

On one hand, through the advances in energy-conserving technology of the LED (light-emitting diode) in recent years, noteworthy is the phenomenon which can be considered the arrival of the night environment age. On the other hand, however, it probably is a fact that unless adequate consideration is given to steering this trend, the entire city could possibly become confused and chaotic.

If the motif proposed this time transcends simple patterns and designs, is not restricted to individual buildings and is expanded to the entire street, the role that this technology plays in expressing the individuality of the street and the identity of the area will become unexpectedly bigger and more effective.

I want designers to take up anew the problem of "minimum surface" previously proposed by Fuller and search for the possibilities of "gaiso (street face) design" as a future problem.

Architect

Judging of 14th CS Design Awards
Taku Sato

When I look anew at the works which won CS design awards this year, I perceive that there are many powerful works which greatly transcend the framework of graphics consisting of pasted sheets and which even change the concept of space. How great an effect graphics can have on space is proved by looking at these works. It means that many outstanding works were submitted. The work "HIROO COMPLEX Stage I and Stage II," which was awarded the Grand Prix Award, truly symbolizes this fact. Graphic treatment through use of small sheets can be seen nowhere, and the existence of the building itself is made vague in the good sense of the word only through the way the semi-transparent sheets are used. It is a strange existence which can possibly be called a film-covered nest for human beings. It shows how important the surface of a building is.

Another work which was impressive as an outstanding work was the "Nagasaki Prefectural Art Museum." The thin, vertical stripes were effectively used in the building, the sign and the Web site. The relationship between the thin, vertical slits of the building and the sign system consisting of two rows of slits is superb. As people move around, it seems that the Chinese character logo and English logo within the two rows of slits move together with the vertical, white straight lines. This movement is linked to the animation logo of the Web site and others. The delicate design makes us place hopes on the high level of the museum itself.

In the Transport Machine Category, compared to the dirty graphics often seen recently on municipal buses, the design of the "Toyama Light Rail PORTRAM" is overwhelmingly beautiful, and the bold use of colors blends in pleasantly with the streets and natural scenery. It should be compared with the graphics on the dirty buses which are soiling the streets as advertising media.

The materials used in the graphics of "Akihabara UDX Light Wall Art Work," which won the Silver Award in the Experiment Category, are most interesting. It has made a pattern of various pylons seen from below. The way the meaningful forms have been extracted and the viewpoint are very good and most appropriate for the Experiment Category.

"Aozora ni Nukeru Michi" (Road to the Blue Sky) was specially given the Encouragement Award this year in the sense that it was a free creative activity drawn out by the cutting sheet. This is nothing more than one possibility of tools.

What was regrettable this year was the lack of good works outside of the works which won awards in the Transport Machine Category and the Experiment Category. I want the young creators, who are in an environment in which they cannot actually work, to search for new possibilities in the Experiment Category.

Graphic Designer

Arrival of the Cutting Sheet Age
Shigeru Uchida

Has the cutting sheet age finally arrived?

From quite a while ago, I have frequently pointed out that the age of the cutting sheet as an expressive material for buildings and interior space would be coming. When I look at the works which won awards in the 14th CS Design Awards, I feel that designers have really begun to use cutting sheets as durable material. Cutting sheets have been used in buildings and interior space for a long time. In many cases, they were used to make special expressions in space, such as graphics and visuals. The various expressive techniques gave a certain coloring to interior space. But in many cases, the use was restricted to a specified period, and there were few cases where they were used as proper basic material in buildings. But today the cutting sheet has become a basic material for buildings. This probably means that the cutting sheet has overcome the problem of durability, which the building space most demands.

There are two ways of looking at how the cutting sheet is used. One is when the cutting sheet is used as a superior material which can produce expressions other materials can't, when space demands such bold expressions as graphics, photographs and colors. This is only because the stability and accuracy of the expression are so superior that they cannot be produced by any other material. The other use of the cutting sheet is as a basic material in space and buildings. In the case of color space, paint is generally used when coloring space. Paint is a material made by mixing pigment and binding medium, and there is a limit to its chroma and brightness. On this point, the cutting sheet can provide stable, beautiful colors which cannot be obtained with paint. This point probably indicated the possibilities of the cutting sheet as a basic material for building space.

The cutting sheet becoming a basic building material similar to wood, steel, stone and brick is an expansion of expression. The cutting sheet produces not only colors but also various strata. Depending on circumstances, it probably can produce space transcending our imagination. The 14th CS Design Awards produced a group of works which made us predict such a future.

Interior Designer

ACKNOWLEDGEMENT

Yukiya Nakagawa

On the ocassion of the 14th CS Design Awards, I would like to warmly thank the many designers who submitted works from all over the country, the elite judges and those concerned of the various organizations who have continued to give us unfailing support.

Soon after development of the cutting sheet, which is generally called a decorative adhesive sheet, developer Nakagawa Chemical Inc. was confident that this color material would become a large material comparable to paint in the future.

A large material with strong influencing power is a double-edged sword. Feeling there was a need for a guide on how to use this material in order to properly nurture this material, Nakagawa Chemical took into consideration the educational activities for good design and the prevention of color pollution and established the CS Design Awards. As had been expected, this material has today achieved the hoped-for popularization and has come to produce all aspects of our life space, including signs, show windows and vehicles.

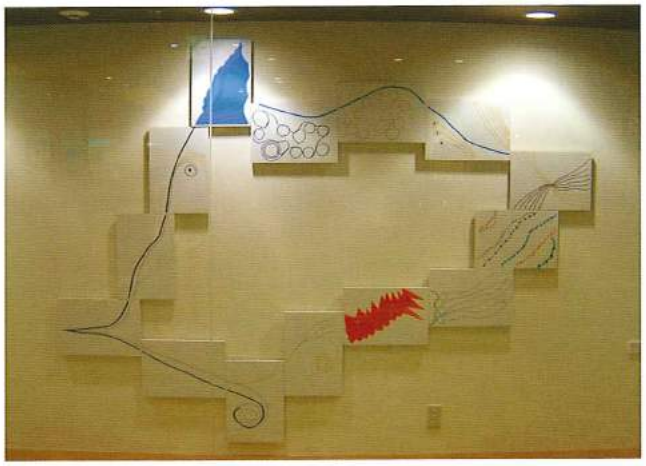
Since the cutting sheet can be easily pasted and can, at any time, be peeled off without leaving behind any paste, the expression of seasonal feelings in show windows and other surfaces is very effective. Furthermore, the cutting sheet has the special quality of being able to skillfully control light. As for the different kinds of cutting sheets, we have available cutting sheets which consider not just the reflected light from the color effect standpoint, but also the gradations of uniform transmitted light as well as transmissivity. Being able to design while being conscious of light is the strongest point of the cutting sheet.

After overcoming the turbulence of the past decade, the Japanese economy is now entering a new active period. Large-scale redevelopment projects are advancing in various parts of the country. Buildings are designed making abundant use of bright, liberating big glass, and the cutting sheet, which can produce harmony with light by post-production processing, contains great possibilities. The work which won the Grand Prix Award this year is one which skillfully controlled light, and we believe that in this field in the future it will become a big guidepost for the cutting sheet which colors the street scene.

The CS Design Awards are marking their 25th anniversary this year, a quarter century milestone, but compared to the beginning, the works submitted have become surprisingly large. When we consider the influence of the cutting sheet on the street scene, we feel that the role of the CS Design Awards will also grow bigger year by year.

The next CS Design Awards will be the first step toward the 50th anniversary, but we would like to ask designers from all over the country to submit their bold works for the 15th CS Design Awards.

President, Nakagawa Chemical Inc.



作品名／<何かがやって来る><あおぞらに抜ける道> 他

アーティスト／光島貴之
「10歳で視力を失ったぼくは、カッティングシートとラインテープを使いこなして、色とかたちを取り戻した」「現在、10歳までの記憶を頼りに少しずつ色を取り戻しながら、描き続けている」

Title / "Something Comes," "Road to the Blue Sky" and others

Artist / Takayuki Mitsushima
"I, who lost my eyesight when I was 10, won back colors and forms by mastering use of cutting sheets and line tapes."
"Presently, I continue to draw while recovering colors little by little while depending on memories up to age 10."

ご挨拶

中川幸也

第14回CSデザイン賞の開催にあたり全国からの多数のご応募と審査員の先生方、また変わらぬご支援を賜っている諸団体関係各位の方々に厚くお礼を申し上げます。

一般的に装飾用粘着シートと呼ばれているカッティングシートが開発されて間もない頃、開発者の中川ケミカルでは、この色の素材が将来ペイントに並ぶ大型素材になることを確信しておりました。

影響力の大きな大型素材は両刃の剣です。適切に育てるためには、使い方の道しるべが必要と感じ、良いデザインに向けての啓蒙活動と、色の公害防止も考え、このCSデザイン賞設立の運びとなりました。

果たしてこの材料は、今日、期待通りの普及を見せ、サイン、ショーウィンドウ、車輌など、私達の生活空間のあらゆる場面を演出するようになりました。そして今やシート材料は世界中に定着するようになりました。とりわけ日本では質、量ともに、シートが街の景色に溶け込んでいると云っても良いほどに色の材料として深く関っています。これはカッティングシートが、日本から普及していったことと、同時にこのCSデザイン賞が適切に機能してきたことが考えられます。CSデザイン賞の発足以来25年の間に繰り返し発信し続けて来た情報により、日本では知らず知らずの間に、シートに対する親近感、感性が育てられて来たのだと感じています。

シート素材は手軽に貼れて、また好きな時に糊残りなく剥すことが出来るので、ショーウィンドウなどへの季節感の表現には極めて有効です。更に光を上手にコントロール出来ると云う特性もあります。この点での品揃えは、色の効果の上で単に反射光だけでなく、均一な透過光、更に透過率の階調まで考えて用意されており、光を意識してデザインが出来ることは、実はシート素材の最も得意とするところです。

日本経済は、この10年余りの大きな波を乗り越えて新たな活性期を迎えており、各地で大型再開発が進行しております。建築はいずれも明るく開放的な大型ガラスを多用したデザインで、後加工で光との調和を演出できるシート素材には大きな可能性を感じております。

今回のグランプリは、まさに光を上手にコントロールした作品で、今後この分野で街を彩るシート素材の大きな道しるべになると思います。

このCSデザイン賞は今回で満25年、四半世紀の節目を迎えることになりますが、当初に比べ1つ1つの作品が驚く程に大型化しております。シート素材の街並みへの影響を考える時、このCSデザイン賞の役割もまた、年々大きくなって行くことと思います。

次回は50年の節目に向けての第一歩になりますが、全国の皆様にはますます意欲的なご応募をお願い申し上げます。

（株式会社中川ケミカル代表取締役社長）

第14回CSデザイン賞2006募集要項

「色を通じて社会貢献したい」と願う中川ケミカルが豊かな環境作りを目的にCSデザイン賞を設定し、広く作品を募集します。

募集作品

「貼る塗料」として、一般に市販されているサイン・デザイン・装飾用粘着シート(例<商品名>:カッティングシート、タフカル、NOCSなど)を使用したもので2004年4月1日より2006年3月31日までにデザイン制作された作品とします。

A:装飾部門/装飾を目的として制作されたもの
建築ファサード・エクステリア・ウィンドウディスプレイ・店舗・インテリア・イベントの空間(原則として閉会時に撤去されるもの)など

B:サイン部門/サインおよびサインシステム(CIも含む)の一部として制作されたもの
大型広告塔から店舗小型サイン・交通施設・住環境施設・複合施設のサインシステム
シンボル、モニュメント(記念碑・時計塔などの象徴的でかつアイデンティティの強いもの)

C:輸送機器部門/車・航空機・船舶などの輸送機器全般の装飾(スポーツレジャー施設の乗り物も含む)

D:実験部門/平面・立体を問わず独創性のある作品
芸術・工芸作品・実験的なもの・その他(既発表、未発表を問わない)

審査員 (順不同、敬称略)
永井一正(審査委員長)
福田繁雄
菊竹清訓
内田　繁
佐藤　卓

後援団体 (順不同)
社団法人 日本グラフィックデザイナー協会
社団法人 日本商環境設計家協会
社団法人 日本サインデザイン協会
社団法人 全日本屋外広告業団体連合会
社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会
社団法人 日本ディスプレイデザイン協会
NPO法人 日本タイポグラフィ協会

協賛　日経デザイン

主催　株式会社中川ケミカル

The 14th CS Design Awards 2006 Solicitation Conditions

The Nakagawa Chemical Inc., which is hoping for a "Better World Through Color," established the CS Design Awards with the aim of creating a rich environment and is soliciting works for these awards.

The works to be submitted must have been designed and produced between April 1, 2004, and March 31, 2006, using any type of self-adhesive film for graphic applications generally sold as "pasting paint," such as Cutting Sheets, Tuffcal, NOCS and others.

A: Decoration Category/ Those produced for decoration: Building facades, exteriors, window displays, stores, interiors and event spaces (in principle, those that are removed after completion).

B: Sign Category/ Signs and works produced as part of a sign system (including CI): Large advertising towers, small store signs and sign systems of traffic facilities, housing environment facilities and comprehensive facilities. Also symbols and monuments: Works which are symbolic and have strong identities such as monuments and clock towers.

C: Transport Machine Category/ Decoration of transport machines such as vehicles, aircraft and ships. Includes rides at sports and leisure facilities.

D: Experiment Category/ Works with originality regardless of whether they are two-or three-dimensional. Arts, crafts, experimental works and others (can be either published or unpublished, submitted to other competitions or not).

Judges
Kazumasa Nagai (Chief Judge)
Shigeo Fukuda　Kiyonori Kikutake
Shigeru Uchida　Taku Sato

Supporters
・Japan Graphic Designers Association
・Japanese Society of Commercial Space Designers
・Japan Sign Design Association
・Japan Typography Association
・Federation of All Japan Outdoor Advertising Association
・Nippon Display Federation
・Japan Display Designers Association

Cooperator Nikkei Design

Sponsor Nakagawa Chemical Inc.

カタログ制作/株式会社中川ケミカル　第14回CSデザイン賞係　2006年9月
編集/グラフィックデザイン社
表紙デザイン/永井造形研究所
レイアウト/中山ミミ
英訳/藤田シグ

Catalogue Production:
The 14th CS Design Awards Section,
Nakagawa Chemical Inc., September 2006
Edited by Graphic Design Associates
Cover Design: Kazumasa Nagai Design Institute
Layout: Mimi Nakayama
English Translation: Shig Fujita

株式会社
中川ケミカル

本社:〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-1-6 岩田屋ビル4F TEL 03(5835)0341(代)
大阪営業所:TEL 06(6543)2661(代) 札幌営業所:TEL 011(736)4788(代) 福岡営業所:TEL092(431)3013(代)
NAKAGAWA CHEMICAL INC.
Head Office : Iwataya Bldg., 2-1-6 Higashi-Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0004, Japan, TEL 03(5835)0341
Osaka Office : TEL 06(6543)2661 Sapporo Office : TEL 011(736)4788 Fukuoka Office : TEL 092(431)3013